

転倒転落危険度が高い精神科入院患者の転倒転落発生要因の分析

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科

森山 仁美

背景 (Background or Introduction)

転倒転落は病院内のインシデント報告の中で、薬物投与に関するものと並んで多くみられるインシデントであり、精神科領域においても同様である。特に精神科患者においては、認知機能や理解力の低下により、転倒予防策に対して患者の協力を得にくいというのが特徴的である。あわせて、精神科患者の高齢化に伴う認知症患者の増加や、精神疾患由来の認知、運動機能の低下、向精神薬による治療などにより、施設内での転倒転落の発生リスクが大きくなっているという先行研究もある。それらの研究の多くは、インシデントレポートのみを用いたものが多く、その発生率の検討や転倒の要因に関する疫学的検討がなされているものは少ない。

目的 (Objective)

転倒転落の発生が多いとされるアセスメントスコアの危険度が高い精神科入院患者を対象に、コホート研究を用いて、転倒率を検討し、さらに転倒転落の原因と思われる項目の転倒に与える影響を総合的に評価する。

方法 (Methods)

対象は、2010年4月～2013年3月までに当該施設に入院しており、且つ、転倒転落アセスメントスコアシートの危険度が高い患者とした。転倒転落の有無とアセスメントスコアシートの各項目との関連、各項目の影響を考慮した転倒転落との関連性を χ^2 検定やロジスティック回帰分析を用いて調べた。

結果 (Results)

転倒転落アセスメントスコアシートの各項目について、転倒率を調べることができた。

また、転倒転落に影響を与えている可能性があるアセスメントスコアシートの項目として、身体拘束、点滴、尿管、看護師の勘、突進歩行、排泄介助、鎮痛剤、痺れであることが各項目と転倒との関連を個別に分析することでわかったが、多変量ロジスティック解析にて各項目の転倒への影響を総合的に分析したところ、転倒転落と影響項目との関連については明らかにならなかった。しかし、身体拘束と看護師の勘に影響する項目は明らかとなった。

結論 (Conclusions)

本研究では、コホートデザインを用いて転倒転落リスク要因の転倒率を評価することができたが、多変量ロジスティック解析にて各項目の転倒への影響を総合的に分析したところ、転倒転落と影響項目との関連については明らかにならなかった。

しかし、身体拘束と看護師の働の影響項目は明らかになり、身体拘束の有無は、転倒への影響が強く、また、看護師の働にも一定の有効性が認められるが、実効性に結びついていない可能性があることが分かった。精神科では、疾患の特性により予測不可能な複雑な要因が更に絡み合っている可能性もあり、精神科における転倒転落アセスメントスコアシートの精神面の項目などの検討が必要と考える。

キーワード (Key Words)

転倒転落 精神科 転倒率 転倒転落影響要因